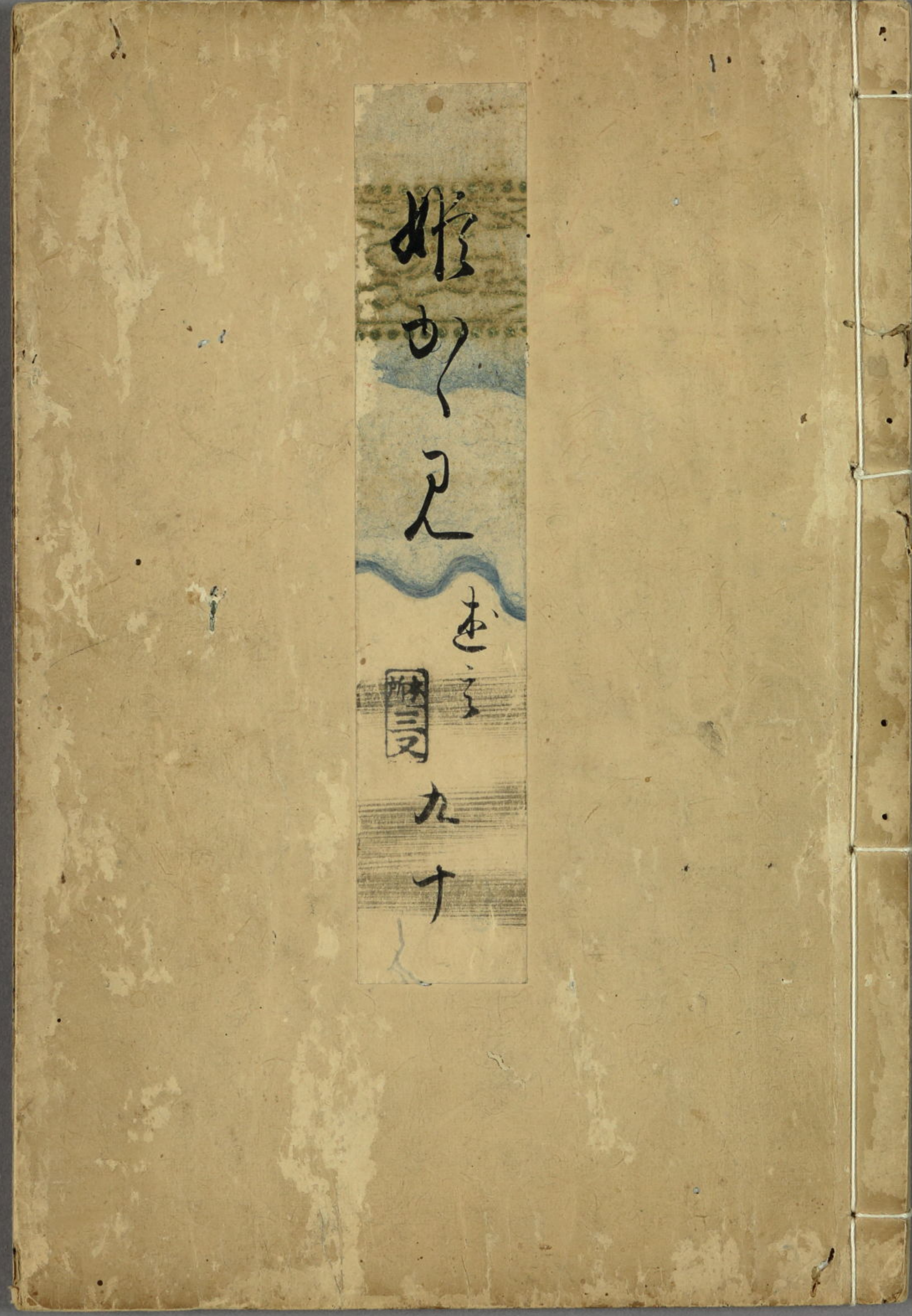
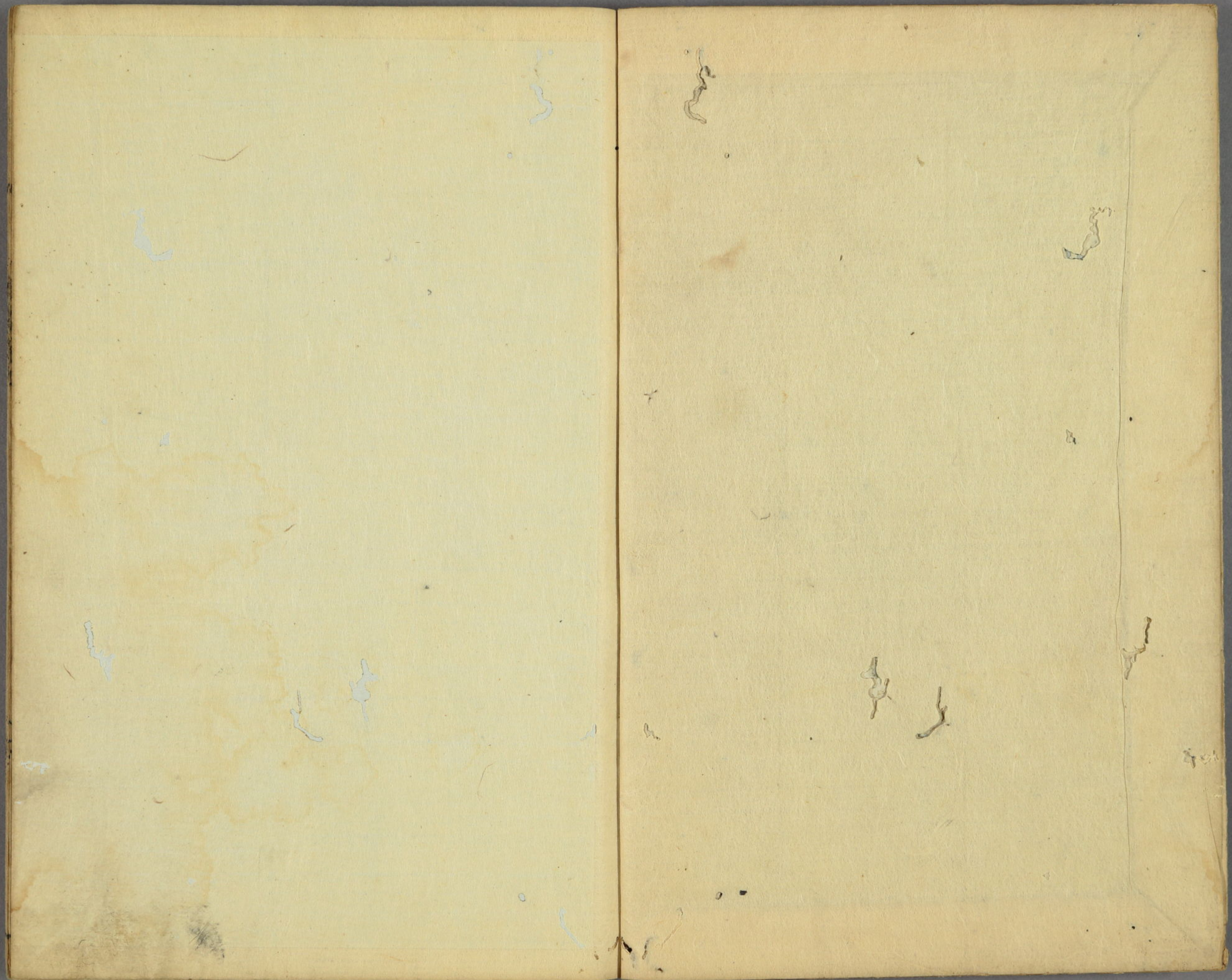




姫
の
見
本
三
九
十







比賣盤卷之九

いふに
述言第九
は卷六第七の事の中れ二なり

人の人々その徳とありては、
 くわいふことありては、
 けいふことありては、
 とくせとありては、
 人々欲とありては、
 さふいびてありては、
 らむとありては、
 つとむとありては、

[illegible][illegible]

そのあつた地なりふりてみわらふぞう

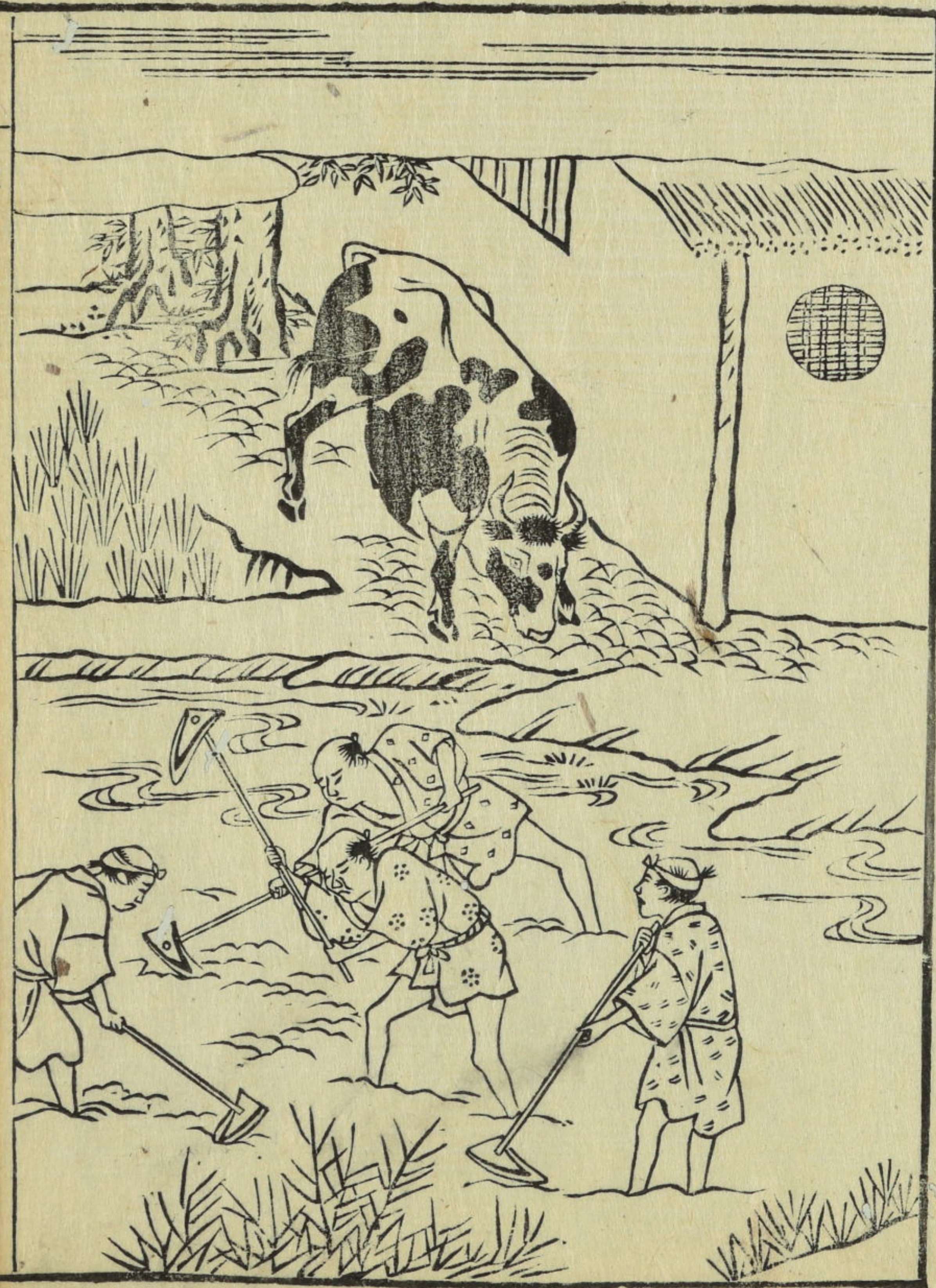
[illegible]

[illegible]

らぬ月日なしかるのひかき響の陶甕がいく大甕に甕人
だもすからす法とおもふれんふよりてはゆふ分法と本
あじべーとふんふが甕人ぞよすれ日とてひひくち
ぶしち世のつひのつづきいふの目づきやあひじし
なりとぞちがもいふちりなり

ふゆふひふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

月日なしかるのひかき響の陶甕がいく大甕に甕人
だもすからす法とおもふれんふよりてはゆふ分法と本
あじべーとふんふが甕人ぞよすれ日とてひひくち
ぶしち世のつひのつづきいふの目づきやあひじし
なりとぞちがもいふちりなり



てけしめゆき事吉とありてなほよくなりたるものありは
美利堅國なるすむありと事ありていふは武部が
いふふくたれものありて人のいふとていふとて
ありそのれぞとてやういふものありていふとて
とやうに然るはありとてなほそれのちとていふ
そのちとてありてありとてありとていふとて
ゆふに大慈大悲なりとてそれとていふとて
又衣笠府家公れいといふとていふとていふとて
とていふとていふとていふとていふとていふとて
まゝありていふとていふとていふとていふとて

人よありていふとていふとていふとていふとて
はゆふとていふとていふとていふとていふとて
ありとてありとてありとてありとてありとて
とていふとていふとていふとていふとていふとて
らとていふとていふとていふとていふとていふとて
とていふとていふとていふとていふとていふとて
とていふとていふとていふとていふとていふとて
なりとていふとていふとていふとていふとていふとて
とていふとていふとていふとていふとていふとて
とていふとていふとていふとていふとていふとて
とていふとていふとていふとていふとていふとて

比賣鑑卷第九

比賣鑑卷之十

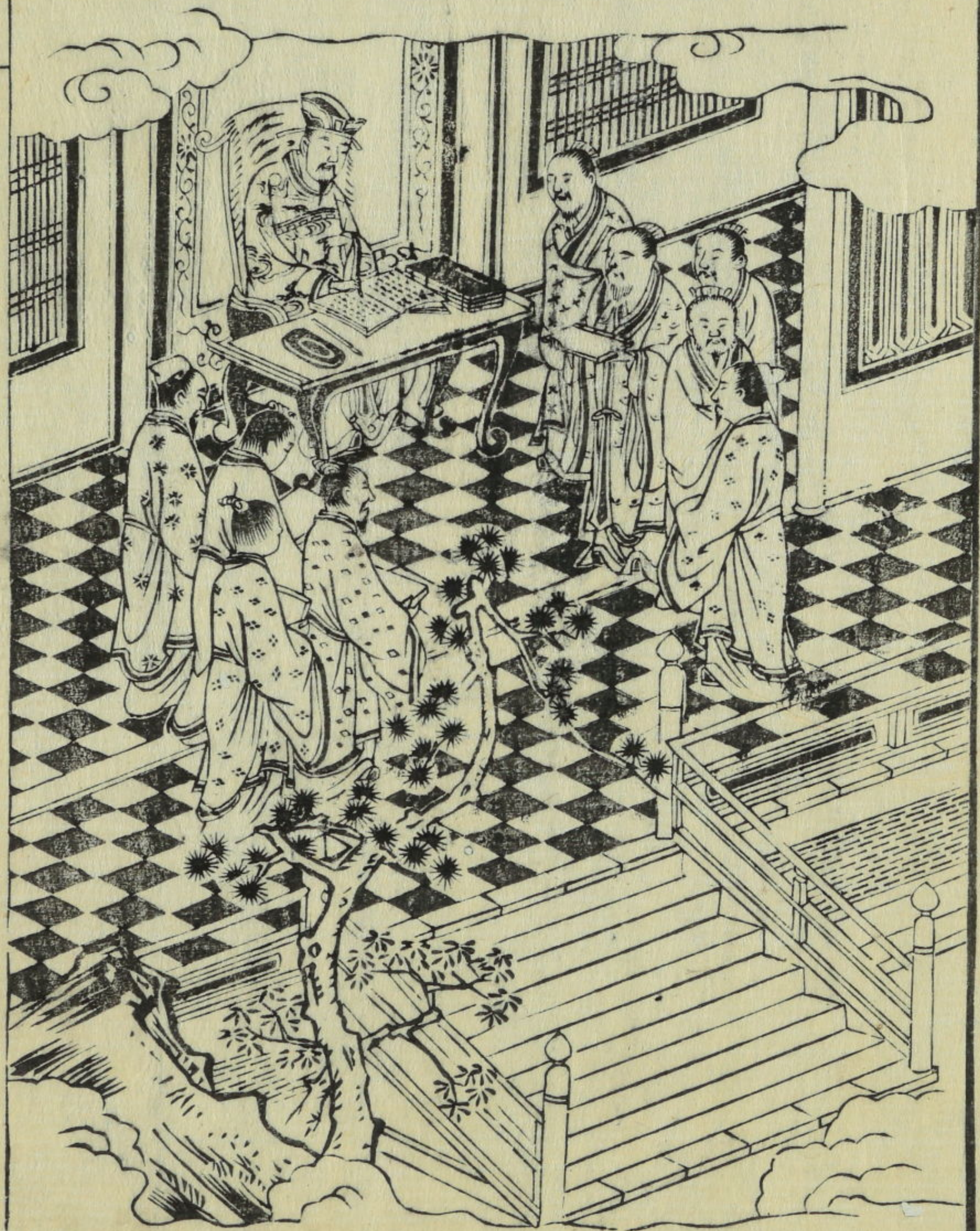
述言第十 世に於て乃ちこれ中のとなり

あつちひあひむしんがゆりてよりとせよのくもれ
るありてなりひそり中も人のたすけおめのおり中
づこてよりづの事あまのひ一聖人ともてあまのそかへせあひ
てあまのたのまは悪くして政とて所やせとて一政はた
まふとてあひあひつていづみ帝とてよりておろの世の
るなりやとよはまびつるなり伏羲神農黃帝唐堯虞
舜ともてあまのひそりあまのたすけおめのおり中
まこれとてよりづの周の武王とていづれれ樂とてなりて太

平の理^{こと}のあらわれを聖人^{せいじん}なりれり人^{ひと}を帝^{てい}とせし徳^{とく}と
祿^{りく}とあつてつぎのやうであつたゆゑに周^{しゅう}の末^{すえ}がうへより
時^{とき}はあつてつぎのやうであつたゆゑに周^{しゅう}の末^{すえ}がうへより
のやうであつてつぎのやうであつたゆゑに周^{しゅう}の末^{すえ}がうへより
しるべきやうであつたゆゑに周^{しゅう}の末^{すえ}がうへより
ゆゑに周^{しゅう}の末^{すえ}がうへより
そのうち聖人^{せいじん}の道^{みち}統^とめてはる人^{ひと}が後^{のち}に秦^{しん}の始皇^{しやうわう}
やうたりつて漢^{かん}の世^よはあつたゆゑに周^{しゅう}の末^{すえ}がうへより
うりてつぎのやうであつたゆゑに周^{しゅう}の末^{すえ}がうへより
韓^{かん}退^{たい}之^のの政^{せい}陽^{やう}永^{えい}叔^{しゅく}がど大^{だい}やうにむしつてつぎのやうであつた

まてつぎのやうであつたゆゑに周^{しゅう}の末^{すえ}がうへより
て孟^{もう}のた統^とめてつぎのやうであつたゆゑに周^{しゅう}の末^{すえ}がうへより
のやうであつたゆゑに周^{しゅう}の末^{すえ}がうへより
のやうであつたゆゑに周^{しゅう}の末^{すえ}がうへより
これらのは人^{ひと}の所^{ところ}にあらはれつてつぎのやうであつたゆゑに周^{しゅう}の末^{すえ}がうへより
のやうであつたゆゑに周^{しゅう}の末^{すえ}がうへより
とつてつぎのやうであつたゆゑに周^{しゅう}の末^{すえ}がうへより
る人^{ひと}の所^{ところ}にあらはれつてつぎのやうであつたゆゑに周^{しゅう}の末^{すえ}がうへより
た人^{ひと}の所^{ところ}にあらはれつてつぎのやうであつたゆゑに周^{しゅう}の末^{すえ}がうへより
らつてつぎのやうであつたゆゑに周^{しゅう}の末^{すえ}がうへより

女金鑑卷十

[illegible]

かりきよそのうちよいで大子中庸と痛潔あるあてせて
られは流せりやう大子より痛潔よりつりてはは中庸よ
うづいでは書かざる理とあらざるものぞうかめと
ふおかり大子これより一人をとする次第とのべま
明徳とあるやうやとあるやうの玉音とあるやうの
徳傾としてその像月よりあり物よりあるやうを
減り一人とあるやうと徳とあるやうとするのとなり
家としてあるやうとあるやうとたつてあるやうとあるやう
その事なり八つの事これその玉音とつてせうと玉音と
いふるにあらざるやうとせうけくその徳と化より痛潔に

孔の門中より一は中庸後述よりある玉音とあるやう
其の果れ下よりあるやうとあるやうのあり孔の門のありと
のありとあるやうとあるやうのありとあるやうのあり
孟子にむくは孔の門より一よりあるやうとあるやう
らうとあるやうとあるやうとあるやうとあるやうとあるやう
とあるやうとあるやうとあるやうとあるやうとあるやうとあるやう
伯也とあるやうのありとあるやうのありとあるやうのありとあるやうのあり
人のありとあるやうのありとあるやうのありとあるやうのありとあるやうのあり
もいふとあるやうとあるやうとあるやうとあるやうとあるやうとあるやう
下よりあるやうとあるやうとあるやうとあるやうとあるやうとあるやう

かくは祓ぐはくちと人よはでいひかゝるもくちのちのちなり
 せんたぐれ人ねむりかきしもあぐりて天命のせいとけまれ
 て人へのふまふかてりあはれとていりあて人のふとてり
 みまふすもあぐりあてにあらん天地方物と二様とも人
 ようが祓ぐりくちあてすかうらんもはてしなくあてのち
 とてあてられん人へのちあてにあらんてりあてのち
 人のあてありあはれ祓ぐりてあてとていりあてとてりあ
 ちとての祓ぐりてあてとていりあてとていりあてとていり
 てにたてあてあてのちあてとていりあてとていりあてと
 ていりあてとていりあてとていりあてとていりあてとていり

